

平成20年度国立赤城青少年交流の家企画事業

「あかぎ交流の森創造プロジェクトⅢ（公開セミナー・発表交流会）」

実施報告

国立赤城青少年交流の家では、11月24日(月)に企画事業「あかぎ交流の森創造プロジェクト（公開セミナー・発表交流会）」を開催しました。また、同日は、赤城自然塾設立準備会による中間報告会も併せて開催されました。

この事業は、国立赤城青少年交流の家の企画事業「あかぎ交流の森創造プロジェクト（公開セミナー・発表交流会）」のツリーイング(木登り)アドベンチャー体験・炭焼き体験・森林整備体験と赤城山周辺の自然をフィールドに、環境教育の実践と全国への情報発信、指導者の養成を目指す「赤城自然塾」設立準備会による中間報告会(ゆたかな森のみらい予想図を考えよう)という内容でした。

参加者は、群馬県内からツリーイング(木登り)アドベンチャー指導者希望者と赤城自然塾設立準備会による中間報告会の参加者併せて84名が集まりました。

午前の部は赤城自然塾設立準備会による中間報告会を行いました。松枯れ林地再生プロジェクトや子どもゆめ基金事業活動報告「ベテランと児童による赤城体験」など8つの報告と群馬大学教育学部の西園大実准教授による「改定学習指導要領に定める環境教育の役割と位置づけ」の講演等を行いました。

午後の部はあかぎ交流の森創造プロジェクトセミナーの上級編を実施しました。これはツリーイング(木登り)アドベンチャーを学校教育や青少年教育で活用していこうとする指導者希望の参加者が体験参加者に対して実際に指導し、指導力をアップさせることを目的で行いました。

指導者希望の参加者からは、「知っていることと、それらを活用することは全くちがうことであり、新たに知ったことや気づいたことなどを実践していこうと思った。」「自分自身ももっとうまくならなければ、教えてもらう人が不安になってしまうことがわかった。」「実際に教えることで自然には様々な危険な場所があり、それが見えるようになった。次の機会では、注意しながら指導してみたい。」などの感想が聞かれ、今回の事業を通じて参加者が互いに刺激しあい、指導力向上のきっかけになったようです。また、参加者からは、「ロープを使うことによって簡単に木登りができて感動した。」「木登りをして純粋に楽しかった。また挑戦したい。」などと、好評な感想をいただきました。

活動記録

午前：第一部 赤城自然塾設立準備会

「広域連携による環境教育プログラム策定事業」活動報告会



【開会式】



【松枯れ林地再生プロジェクト】



【子どもゆめ基金事業活動報告
「ベテランと児童による赤城体験」】



【群馬大学生による研究発表】



【講演】

午後：第二部 国立赤城青少年交流の家企画事業
あかぎ交流の森創造プロジェクトⅢ（公開セミナー）



ツリーイング（木登り）
アドベンチャー体験





【炭焼き体験】



【森林整備体験】

